

試用テスト品放出 Chaos SI 29#セット



試用のために貸出してあったChaos SIが戻ってきました。

当面、試用需要がなさそうなので放出することにしました。

Chaos SI RH・29#仕様でACC3L-00・25インチアロー12本とShrewd 24インチスタビライザー、Trophytaker ファールアウェイレスト、Spiga EVO CPサイト+バイタースコープ付でケーブルはFirstStrings420X、ストリングはABB 8125ストリングでフルチューン済のものです。

ケースはRoland のキーボードケースです。

好みのリリーサー、クイバー、ボウスタンドを用意していただければすぐにシュート可能な状態ものでこれからCPを始める女性に最適なセットです。

価格はセットで65,000円です。

アフター面から店頭渡しを希望いたします。

尚、セットでの販売のみでばら売りはいたしませんのでご了承ください。



売約済となりました。

2014.12.26

テスト済Verge Stiletto放出

Verge Stiletto (40#・RH)のテストシュートも完了したので放出いたします。

実射は80射前後で、ストリングはPSE純正のものからABBカスタムストリングに換装してあります。

写真のスタビライザー、サイト類は付属していません。

レストはTrophy Takerファールアウェイレストが組み込んであります。

価格は65,000円です。

尚、ABBのカスタムストリングの予備セットもご希望でしたら9,500円でお付けします。

アフター面から店頭渡しを希望いたします。



完売しました。

2013.12.25

テスト済のFever放出



試射テストを終了したFever-40# (RH
・Skullworks)を放出いたします。

実射は50射前後でほぼストリング/ケーブルがなじんだ状態でストリング/ケーブルはPSE純正のままです。

写真のサイトおよびスタビライザー等は付属しません
がセットしてあるCobra Fall-Away Rest付で価格は30,000円(現品限り)です。

通販でも可ですが、アフターの視点から店頭渡しを希望いたします。

詳細はメールにてご連絡ください。

売約済となりました。

2013.12.15

Feverのテスト

Verge Stilettoに続いてFeverでもテストを開始しました。

この2014年モデル2本はハンドルは共通、リムもメーカーのスペック発表まで確定はしませんが同じ861リムを使用しているようです。

自動車に例えればシャーシ、エンジンは同一の兄弟モデルともいえるのですが、ギア、足回り、タイヤのクオリティが異なるといえます。

強引に例えれば、ハンドルはシャーシ、リムはエンジン、カムはギアと足回り、ストリングはタイヤといった感じかと思えます、



とりあえずシュート可能なセットアップを試してみましたが、予価34,000円のモデルと62,000円で同一アクセサリも現実的ではないので、極力ローコストなもので組み上げてみました。

とりあえず実射をしてみると、カムのレットオフの差(MDは75%、Feverに搭載のVSは70%)およびFXのキャラクターの違いによるギャップは大きく、ドローフィーリングはあまり滑らかとは言えませんでした。

実射はVerge Stilettoと同じアロー(VAP600 298gr)を使用しましたが、発射音は甲高いものでした。



全体にソリッド・硬質感が高いフィーリングでカムとストリングの違いでここまで差が出るかというほどの差があります。

スタビライザーのキャラもあるので、Stilettoに試用しているアクリルセンターに交換してシュートしてみましたが、若干緩和されたものの硬質感から脱するほどではありませんでした。

念のため、スタビライザーセットをVerge Stilettoとまったく同じものにしてシュートしてみました。

かなり緩和されましたが、ソリッド感は付きまっていたままです。

ちなみに同じアローをシュートしてStilettoが237fpsに対してFeverは221fpsの初速でした。

このモデルを使いこなすには重量がある、粘り気の強いスタビライザーと組み合わせたほうが良いような気がします。

そのあたりはおいおいテストしてゆく予定です。



2013.12.5

Verge (Stiletto Edition)のテスト



2014年モデルのVerge StilettoモデルとFeverが到着しました。

とりあえず、2014年の本命と考えてるVerge Stilettoでテストを開始しました。

カムはPhenom SDと同様MD(Mini Drive Cam)です。

ハンドル仕上げは塗装で、同じ2014年モデルのFeverと共通のようです。

かなり軽量化されたハンドルで3.5lbs(1,588Kg)で旧Stilettoより軽量アロイを使用し肉厚も薄くなっていました。

テスト用セッティングです。

3.5lbs(1,588Kg)と軽量なのでサイドバーは振り分けタイプをセットしました。

サイトは旧タイプのStilettoから外してきたものを取り付けたのですが肉厚が薄くなっているためスコープをかなりインに再調整しました。

40# 26.1/2インチドロレグス、VAP600(298gr)でスピード計測237fps(260Km/h)、思ったより早い初速でした。

メーカー出荷は25インチなので私に合わせて26.1/2インチにしたため上カムのヨークを2回転ほど巻き戻した結果、フルドロで上下カムどちらもほぼ垂直になりました。

シュートフィーリングはPSEらしくどすの利いた低めの発射音で振動はほとんど感じません。



左から2013年モデルのChaos AD・Chaosの後継機種Fever、そしてVerge(Stiletto editon)です。

よく見るとFeverとVergeは同じハンドルの流用のよう(刻印してあるパーツナンバーで確認)でメーカースペックでも同じ重量でした。

以前のStilettoモデルはしっかりした造りでしたが、アロイの密度の関係かかなり重量があり女性向けとは言えない面もあったのでそのあたりに対応した結果かと思われます。



ボウリングス(カムの端から端)が小型なMDカムを搭載しているためStilettoとあまり変わらずLegendのSilver Skyケースに収納可能です。

[当ラボ在庫はブルー1台でこれがラストとなります。](#)



次回はChaosの後継機種Feverのテストの予定です。

テスト済のPhenom SD放出



試射テストを終了したPhenom SD-40#(RH ;レッドハンドル)を放出いたします。

実射は50射前後でほぼストリング/ケーブルがなじんだ状態でストリング/ケーブルはPSE純正のままです。

写真のサイトおよびスタビライザー等は付属しません
がセットしてあるTrophy Taker Proghorn Fall-Away Rest付で価格は68,000円(現品限り)です。

リムボルトを1回転緩めた状態で42#+-になっています。
(使用してゆくと若干落ちると思います)

推奨はフルボルトから37#+-でドロウレングスは23~28.1/2"です。

通販でも可ですが、アフターの視点から店頭渡しを希望いたします。

詳細はメールにてご連絡ください。

ABB製ストリング/ケーブル(ブラック/パープル)を準備いたしました。
9,500円プラスで換装いたします。

完了しました。(10/26)

2013.10.28

Phenom SDの試射

ドロウレングス27インチ、VAP600+140グレイン+Elivaneで試射。

やや左寄りにヒット。

ドロウイングマシーンでは上下カムともフルドロウで垂直になっていたのですが、ヨークを若干いじったほうが良いかもしれません。

さて、MDカム、L6カムや大口径のDrive CAMに比較するとピークがやや後方にあるためちょっと強引な印象があります。

当初硬質感がありましたが、リムが練れてきたせいか、ドロウフィーリングが滑らかになっていました。しかし、カムのキャラクターは後半ピーク型に変わりはなくちょっと筋肉に負担感があります。

日本人、特に女性には旧タイプのL6カムの方が良いかなと思いながら数射をシュート。
ほぼインナー10のに集めることができたので終了。

体力が続きません。

リリースとの関係で27インチセットにしたのですが、26-26.1-2インチの方がコントロールしやすいかもしれません。

見直しをして、再度テスト予定。

ところで、PSEらしい直線感があり矢速も早いのですがとても静かです。

気になっていたPSE純正のストリング/ケーブルの安定感(シュート変化が大きいものが多い)でしたが、想定していたよりも落ち着いていました。レーシングカーのタイヤと同じで当たり外れが大きい要素なのですが。

現在、ABBにPhenom SD用のカスタムストリングの手配をしてもらっています。

ABB製の方が安定感は向上しますので。

追記:

ドローレングスを26.1/2インチに変更。

近射で試してみましたが、アンカーリングプロセスはこの方がスムーズ。

ドローレングスは使用するリリーサーやカムのキャラクタで異なることを実感しました。

いずれ到着する予定のVerge-Stilettoモデルもカムは同じなのでこのセッティングになると思います。

2013.10.20

PSE2014モデル上陸第一号



第一号としてPhenom SDが到着しました。

早速、Phenomと比較してみました。

撮影の角度とハンドルカラーの関係でSDの方がハンドルライザーが短く見えますがまったく同じ長さです。

従って軸間距離は同じで、MEカムとMDカムの口径の差でカムの端までの実長が異なるだけです。

重量はPhenom 4.3Lbs(1.950Kg)とSD 4.0Lbs(1.814Kg)でこれはカムの重量差ということになりますか。

ストリング/ケーブルはどちらもPSE純正のもですがカムが異なるため、互換性はありません。

正直、この純正ストリング等は安定性に欠けています。当ラボではAmerica's Best Bowstringsのカスタムストリング類をベツト手配することも検討しています。

新しいMD(Mini Drivecam)と従来のDrive Camの違いは下の写真を見ていただくとして、当ラボで以前から推奨してきた、1.25カム(1カムと1.5カムの中間的なもの)を採用してもらえたのは大歓迎です。

L6カム、THカム、Driveカムが1.25カムに分類されます。

MDカムはME(Mini EVOcam)よりパワーは若干落ちるのですが、日本人の筋肉量を考えると理想的だと考えています。

1.25カムは、1カムよりパワフル、1.5カムよりおおらかで多少のシンクロずれでも融通が利きます。

これは見方としては、曖昧で中途半端な性格ともいえるのですが、その滑らかなドローフィーリングは捨てがたいもの

がありますし、日本人の筋肉の付き方等々を考え合わせると使いやすいカムだと思います。

ただし、シンクロずれに関しては1.5カムよりは懐は深いのですが、やはり合っているに越したことはありません。

シンクロは上カムにストッパーがないので視覚的にはチェックしにくいのですが、アンカーリング直前の感触でもわかります。

それには、それなりの注意力と繊細な感覚が必要ですが、違いが判らないという方はカムのガイドラインを基準にしての維持/調整が可能です。



☆アッパーカム

左がRevengeに装着されているDrive Cam、
右がMD(Mini Drivecam)です。



☆ロアーカム

左がRevengeに装着されているDrive Cam、
右がMD(Mini Drivecam)です。

2013.10.16

リリーサーのホールド (Just-Xを使ってから)

Just-Xのトリガードラムをいろいろと調整しながら考えました。

それはリリーサーを保持するときのフィンガーポジションで使い勝手が大きく異なることです。

最近、トリガーレスのバックテンションリリーサーの利用者が増えてきてそれなりに実績も上げているようですが同時に暴発の危険性も高くなっているようです。

特に、ドローレングスが適合していないとリリースのタイミングが狂ったり、引き戻しやピクリ現象が発生しやすいようです。

短すぎる場合にはリリースのタイミングが遅くなる程度なのですが、日本人ではまだまだ多いオーバードロー気味のセッティングの場合は引きずられリリースや、膨らみリリース、ピクリが発生しやすくなっています。

これらの現象が発生しても押手がエイミング状態を保っていれば良いのですがほとんどの場合、押手が上に動いてしまうため暴発するとアローのオーバー・ザ・トップを引き起こし大変危険です。

特にトリガーレスの場合、引きずられの角度によって意図しない発射、つまり暴発が引き起こされやすいのは否めません。

その理由で、当ラボではトリガーを離せば何とかなるトリガーリリーサーをお勧めしてきていたのです。

特に、私の様に高齢になり、反射機能や集中力が持続できないアーチャーにはトリガーレスの使用をしないようにアドバイスしてきました。

トリガーレスリリーサーは、特に、トリガーを「ガク引きする誘惑に勝てない」ターゲットパニック気味のアーチャーには効果的なのは認めるのですがあまりにリスクが大きいと考えています。

さて、前置きはこれぐらいにして本題に移りますとも、今回発売されたJust-Xは旧来のものに比べて全体的にコンパクトに小さくなっています。

この理由はあとで説明しますが、Stanの開発者がリリーサーのホールドをどのように考えているかが焦点になっているような気がします。

そして、それはリリーサーのホールド方法が変化しつつあるのが背景にあると思っています。

以下に、親指トリガーのリリーサー保持を3パターン図示しました。



おそらく日本アーチャーで最も多いのがこのタイプの保持方法だと思います。

親指の先の方でトリガーにプレッシャーをかけて行ってリリースする方法です。

この方法のメリットは、意図した時にリリースしやすいことなのですが、それは射撃の世界でも問題にされる「ガク引き」になりやすくよほどしっかりとドローテンションを維持し、強い意志力がないと、引きずられリリースやターゲットパニックを発生しやすくなると思います。

次は、親指の先をリリーサーに接触させる方法です。

私はこの取りかけにしてから、ピクリに悩まされることがなくなりました。

どうしても親指を中空に浮かせているとプレッシャーの掛け方にばらつきが生じやすくリリースのタイミングもバラバラになりやすいと思います。

かつてリリーサーの保持は、特にUSAでは、これが主力でそのイメージに従ってリリーサーは設計されてきたようです。

この方法のメリットは、親指とリリーサーの接触点をピボットに、小指・薬指でリリーサー全体を回転させやすくなるということです。

これはトリガーレスの扱い方とまったく同じといっても過言ではありません。

違いは片や角度でリリースするも一方は親指の第二関節に近いところでトリガーにプレッシャーをかけ発射するです。

つまりトリガーというフェイルセーフになる機能が介在するか否かの違いだけで、リリースに至るためのアクションは全く同じはずなのです。

私はこのフェイルセーフ機能の故にトリガーレスではなく、親指トリガーをお勧めしてきたのです。

それでもトリガーレスになだれ込むように利用者が増えたのはおそらく心理的弱さ、ターゲットパニック気味のアーチャーが洋の東西を問わず多いことを示しているのだと考えています。



さて、Just-Xを使い、またSTANの商業画像を見ていて、今回の設計のメインポイントがはっきりした気がしています。

このコマース画像、専門誌のページに掲載されていてもその画像のリンクを発見できなかったのですが、ここで図示できないのが残念ですが、左の写真のようなホールド状態が子供から大人まで、手の大きさが異なる画像が4パターン縦配列されているものです。

[画像リンク発見しました。](#)

いずれの写真も、指の配列は写真のパターン。つまり、親指を人差し指のわき腹に接触させ、リリース全体を包み込むというか握りしめるようにして保持するというものです。

今回のコンパクト化はこのホールドを実現するため設計しなおしたものとされます。

この方法のメリットは、親指をピボットとして回転運動させやすいのと同時に、トリガードラムと指の接点により深い位置になるため、ピクリを発生しにくくなることです。

どうしてもトリガーが落ちないとき、親指の先で押すと感触が繊細になりすぎてタイミングが難しくなりますが、この位置だと、最悪の場合手全体を握りしめるようなイメージでトリガーを押せるためホールドを維持したままリリースしやすくなるはずで

す。リリースはよほど意志力があるアーチャー以外は、意識しないで発射するのがベストなのはみなさん経験でわかっているはずで

す。私自身は、このホールド方法にシフトするためセッティングを変更する予定で

います。ご報告はまた後日・・・

2013.10.11

Stanislawski Just-X のテスト

Just-Xのテストに千代田スポーツセンターに赴きました。

私はMサイズを使用。

そしてSサイズを女性のYさんをお願いしてテスト開始。

私のセットはJust-Xに合わせてドローレングスを1/2インチ伸ばしてあります。

さて、Yさんとはいうとドローセット24.1/2インチの弓とScotto Caliper Gripタイプのリリースの組み合わせで使用されているのですが実はちょっとオーバードロー気味のセッティングで

す。理想的にはもう1/2から1インチドローセットを短くしたいところだったのですが、カムの仕様の関係でリミットいっぱいでした。

そのためか、時折戻りリリースが発生していました。

今回、このリリースが到着したため、もしかして、オーバードロー気味の解消につながるのではと思いモニターテストをお願いした次第で

す。さて、人差し指トリガーから親指トリガーへの変更なのでちょっと戸惑った部分もありましたが、何とかコントロールできるようになったので距離で実射テストをしていただきました。

Just-Xの使用でかなりドローレングスを詰めたのと同じ効果、「ピープやストリングと顔の位置が変わらずに引

きでの肘のポジショニングが短くできる」はずです。

結果、以前は少し疲れてくると、戻りリリースやピクリが発生(引手のテンションが極限に近かったためわずかな弛緩やタイミングのずれで引きずられやすくなる)していたのですが、リリースャーの変更によりかなり軽減されたようで、戻されリリースはありませんでした。

Yさんには引き続きテストをお願いしてあります。

ところで、私のテスト、YさんにSサイズを渡したつもりでMサイズを渡してしまったらしく、私のほうはYさん用に用意したSサイズでシュートしていました。

家で近射をしていた時とタイミングがずれるし、トリガードラムと親指の接点に違和感が・・・

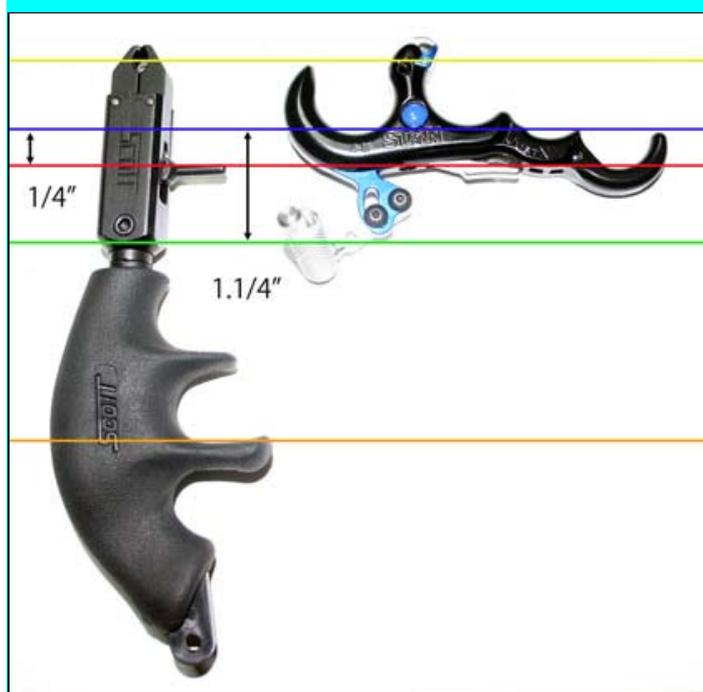
実際に距離に出ると違いが出るのかなと思いながらリリースャーを見るとなんとSサイズが手元に。当然トリガードラムの位置は私用にはなっていません。

あわててYさん用にSサイズを再調整してシュートを継続してもらい、私はMサイズを再調整。

調整の結果、かなり滑らかでシャープなリリースをできるようになりました。

調整といってもタイミングではなく、ドラムと指の接点および角度の調整だけなのですが、わずかな差でも結果が劇的に変化します。

これにはびっくりしましたが、このJust-Xの、じっくりと辛抱強くドラムの位置や角度の調整をした方がより効率の良いリリース結果を引き出せるという印象がありました。



Scotty Caliper GripをJust-Xにチェンジした場合に補正されるドローレングス量について考えてみました。

とりあえずアンカーの起点を人差し指とした場合、Caliper GripとJust-Xの差は1/4インチ。

しかし、実際の体感的な位置はもう少し大きいような気がしています。

というのはCaliper Gripの場合トリガーに掛ける人差し指はかなり伸びきった状態に近いからです。

そこでCaliper Gripのアンカーの起点を、中指と人差し指(トリガー位置)の間と考えると1.1/4インチ。

引手の肘の実際のポジション変化としてこの前後が妥当なところかもしれません。

PSE 2014年モデルのピックアップ

PSEの2014年モデルが発表となりました。

当ラボとして取扱い予定及び推奨モデルを中心にピックアップしてみました。

詳細データが手元に未着なので組み込みリム・カムに関しては推定も入っています。
ご了承ください。

ディーラー向け電子カタログV1が到着しましたが、校正ミスを数点発見。精査しています。



Fever

ビギナー用として長い間発売されてきたChaosが製造中止となりあらたにFeverシリーズとして生まれ変わりました。

1カムモデルおよび2カムモデルの2本立てとなるようで、写真のものは2カムモデルでカムは新しく設計されたVSカムが搭載されています。

ドロールングスは 11.1/2~29"

ピークウェイトは29・40・50・60#

ブレースハイトは6.3/8"

軸間距離 32"

AMO 304-296fps @29"

レットオフ 70%

重量は 3.5lbs

リムボルト 12回転

Verge

位置づけとしては、Stiletto ME、Revenge DCの後継機種のようにそれぞれVergeおよ

びVerge Stilettoとネーミングされています。

ドローレングスから考えて明らかに女性アーチャーをターゲットとしています。

2つのモデルの違いは現時点では不明ですがライザーが異なるのかもしれませんが。スペックは全く同じですが・・・

ディーラー向けカタログのV1が到着して確認していますが、Stiletto、正確にはStiletto Editionはハンドルのカラーリング(Purple Rain)が凝ったものになっているだけの違いのようです。

カムは新しいMDカムでどうも1.25カムのDriveカムのスモールバージョンのようです。

ドローレングスは 22~27"

ピークウェイトは 40・50・60#

ブレースハイトは6.1/2"

軸間距離 30"

AMO 300-292fps @27"

レットオフ 75%

重量はどちらも 3.5lbs

リムボルト 12回転



Phenom

2013年に発表されたSupra MEの後継機種 Phenomですが、2014年からSD(ショートドローモデル)が追加されました

ドローレングスは

25.1/2~30" (Phenom)

23~28.1/2" (SD)

ピークウェイトはどちらも 40・50・60・70#

ブレースハイトは

7" (Phenom)

6.5/8" (SD)

軸間距離はどちらも 36"



Phenom

AMO

329-321fps (Phenom)

316-308 @28.1/2" (SD)

レットオフ 75%ですが

Phenomは MEカム

SDは MDカム

(V1カタログではMEになっているが写真を見るとMDのはず)

重量は

Phenom 4.3lbs SD 4llbs

リムボルト 10回転

Drive LT

こちらは前述のVergeにMDカムではなく口径の大きな従来型のDCカムを搭載したモデルのようでDCカム搭載のDriveとRevengeを統合したもの?

ドローレングスは **25.1/2~31"**

ピークウェイトは **50・60・70#**

ブレースハイトは7"
軸間距離 31"
AMO 336-328fps
レットオフ 75%
重量は 4.3lbs
リムボルト 12回転



以上、当ラボとしてメイン取扱いなしは推奨機種として考えているものをピックアップしました。

他のラインナップですが、**Dominator Max**・**Dominator 3D Max**・**Supra Max**は従来通りのスペックで販売継続されるようです。

さて、これらの写真のリム受けパーツの形を見ると従来もっとも多く使われてきた898リムが昨年から使用されている861ないしは961リムに変更されているようで、これにより矢速の上昇・ドローフィーリングの滑らかさの増加が期待されます。

また、従来はリムボルト6回転だったミドルモデル群はおそらくニューハンドルに設計しなおしたため12回転に変更されています。

継続モデルである**Dominator Max**・**Dominator 3D Max**・**Supra Max**は従来通り10回転のままです。

ところで、リムボルトの回転数の増加は、ボウプレスをかけた時のダメージやトラブル軽減のための措置と考えてください。

決して、リムボルトを緩めて弱いポンド数で使うためのものではありませんので勘違いされないように!!

Stan SX2とJust-Xの使い分け

SX2とJust-Xではフィンガーポジションからフックまでの長さが異なります。

そこで実測してみました。

Just-XではSX2より5/16インチ(約8mm)ほど短くなっています。

つまり、同じドロールングスの弓ではアンカーポジションが約5/16インチほどの方向に短くなります。

つまり1/4インチ強ドロールングスセットを短くしたのと等価になりますので使用の際に留意してください。

ドロールングスがもう少しだけ短いほうが良いと思われていた方はリリーサーのチェンジは効果的かもしれません。



2013.9.25

Stanislawski Just X リリーサー上陸

Stanislawski の新作リリーサー **Just X** が入荷しました。

当ラボでは、トリガーの最後の詰め部分でギシギシ感がないリリーサーとして、皆さんにお勧めしてきましたが、久々の新作。

テストに入りました。

[取扱説明書\(英文・商品付属のものをスキャン後pdfにしたものです。\)](#)

今回入荷したのは、3サイズあるうちのMとSです。

従来取扱いのSX-2はMとLサイズしかなく、手の小さい女性などにはお勧めしにくかったのですが、今回Sサイズもラインナップされ適応幅が広がりました。

右の写真は、上からJust-X Sサイズ、Mサイズ、そして一番下がSX-2のMサイズです。

Mサイズの幅はSX-2とほとんど変わりませんが全体にスリムになりこれぞStanという感じに戻っています。



横のサイズは上の写真の通りなのですが、奥行きはさらに短くなっています。

同じドロースettingsの弓を使用するとアンカーポジションがやや前気味になるため、肘のポジションが後ろ傾向/オーバードロースettings気味で、引きずられやすい方にはお勧めです。

SX-2ではトリガードラムはスリムとラージが付属し好みで使い分けできるようになっていましたが、Just-Xではスリムタイプのみが付属となります。

Just-Xではトリガーの角度設定が自在で、調整機構を組み合わせることでラージドラムと同じ位置に調整可能です。

写真はトリガーの分解図ですが、右下の樹脂ボールはトリガーの自由位置を保持するためのものです。

完全分解してなくさないように注意が必要です。

このボールはトリガーのロックねじ用のホールに挿入します。

これを正しい位置に挿入しないとトリガーが動きやすくなりますの気を付けてください。



左が愛用のSX2、右がほぼ同じフィーリングに調整したドラム位置です。

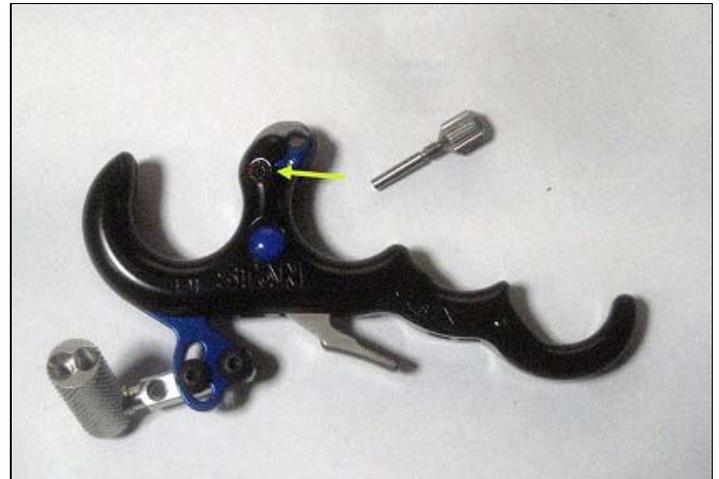
今回はドラムを斜めにセットできるので私の手にさらにしっくり行くように調整してみました。



トリガーに収納してあるねじを写真のホール位置に取り付けると顎部分(フック部分)がロックされますので、Can't Fireなどと同様に素引きやテスト引き等の使い方が可能になります。

機構的に暴発の可能性は皆無に近いと考えられますが、アローをつがえるか否かにかかわらず、利用は必ず的に向って行ってください。

万一を考え、なるべくアローはつがえないで使用することをお勧めします。



何かの事情でフックを標準のクローズ仕様ではなくオープンモードにしたいときにはフック周りにあるブルーのパーツを取り外せばオープンタイプ(オープンジョウ)に変更可能です。

ただし、その場合には付属している小さいねじパーツをブルーパーツを除去した後のホールに締めこんでください。



*オープンジョースタイルはドローイングの癖や角度によってはトリガーを押さなくてもループがフックから外れてしまう可能性があります。過去にリリーサーでの暴発トラブルを調べてみるとオープンジョースタイルでのこのトラブルが非常に多いのに気が付きました。可能な限り標準仕様であるクローズジョースタイルのままでの使用をお勧めします。

これから実用レベルのテストに入る予定です。

レポートはまた後程アップする予定です。

2013.9.24

CPボウでのアンカーリングのスタイル

前回、アンカーリングの際にストリングと顔はなるべく接触させないようにとお勧めしたのですが、それでは不安だというアーチャーは多いと思われます。

そこでCPのアンカーリングについて検討しなおすことにしました。

アンカーリングのスタイルは使用するリリーサーによって大きく2つに分類されます。



リリースの例

上は、親指トリガータイプのリリース。
(トリガーレスタイプも形状はほぼ同様)

下は、人差し指タイプのリリース。

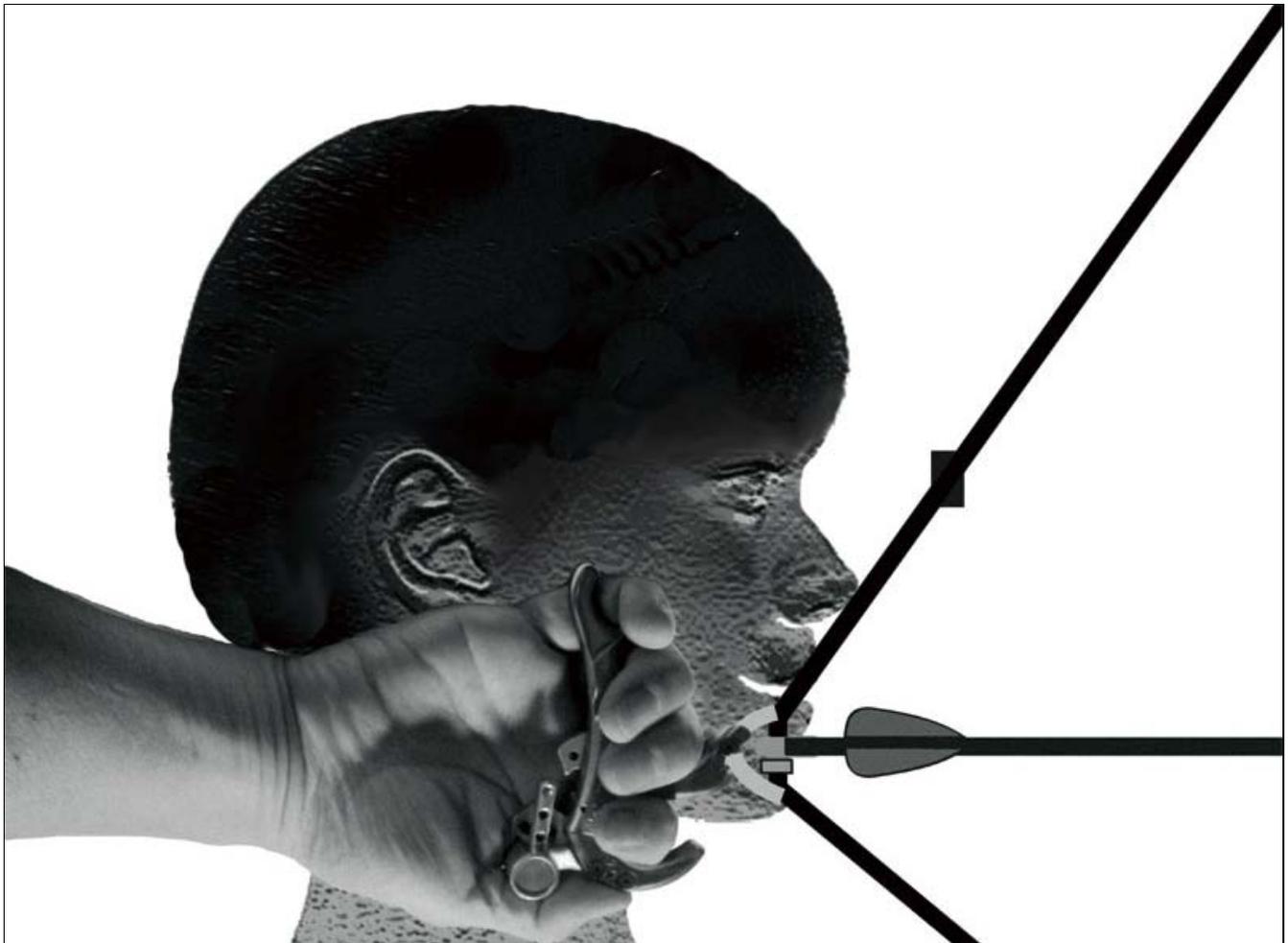
ターゲットアーチャーに多く使用される親指トリガーないしはトリガーレス/バックテンションスタイルのものでは、リカーブボウのローアンカーのポジションから手首を90度~180度ターンし手のひらを頬につけてアンカーを保持します。

こうすることにより、ひじが締りやすくなるためドロウの保持が安定しリリース時の横へのふくらみ現象が緩和されます。

ただし、骨格によっては手首のターンがきついと筋肉のテンションがかなりきつくなるため、あまり低いポジションでのアンカーリングがしづらくなる欠点があります。

つまり、ハイアンカーになるため、サイトが低いアーチャーにはちょっと辛くなる可能性が大きくなります。

図示するとこんな感じです。



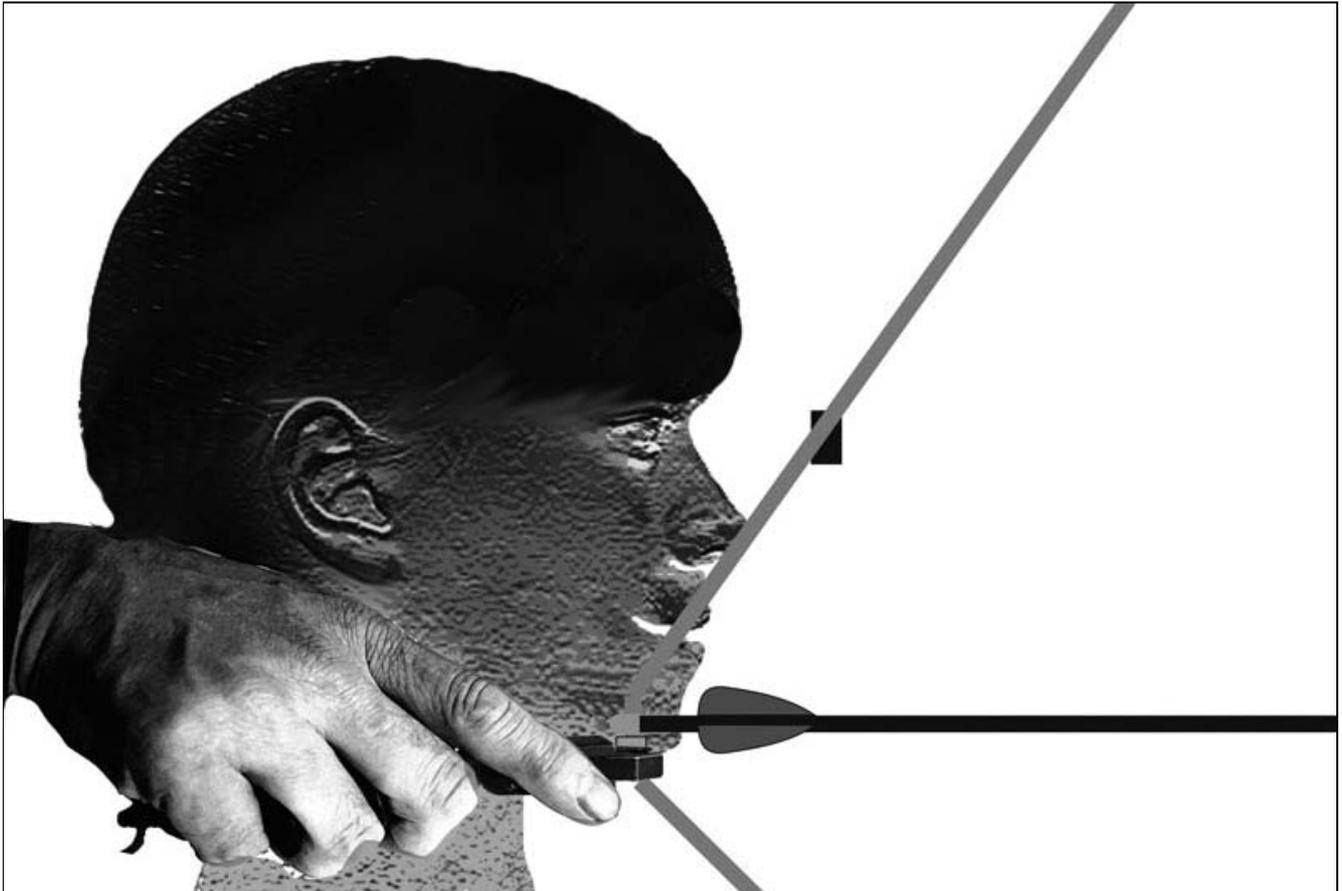
写真では、手首はほぼ180度ターンしていますが、リカーブボウ経験者などではこれよりも小さい角度でアンカーリングするケースが多いようです。
その場合にはリリースは横方向に膨らみやよくなるため、ホールドの維持に注意が必要です。

人差し指タイプのリリースは、銃器からの転向者などにはトリガーの形状がなじみやすいためハンティング現場で使用されることが多いリリースです。

手首はほぼ水平に保持しますが、トリガーを落とす動作と手首のターン角度が相まって、リリース時に横方向に膨らみやよしい欠点があります。

このタイプのリリースは、前述のものと比較して、手首からストリングを保持する爪(ジョウ)の距離が長くなるため、引手のひじが後方にくるため、筋肉バランスがオーバードロー気味になります。

写真ではDループを使っていませんが、もちろん使用は可能です。
ただし、その場合ひじの位置はさらに後退するので注意が必要です。



写真のものはグリップタイプですが、人差し指トリガーの場合手首にベルトを巻く「リストタイプ」のものも多く使われます。

さて、当ラボではストリングと顔の接触をミニマムにし(理想は接触なし)、ストリングのねじれを防止するようなアンカーリングをお勧めしているのですが、ではどのようにしてアンカーリングを固定・保持すればよいのかという問題に移ります。

最近ではCPボウから入門するアーチャーも増加してきているのですが、リカーブボウからの転向者がまだまだ多いのが実情です。

転向者がまず悩むのがアンカーポジションでどこに固定したらよいのか、また手首のターンの場合はどれくらいが良いのか等々だと思います。

私がとりあえずお勧めしているのが下の写真の①の位置(人差し指と中指の間)をあご骨に押し付けるようにして固定する方法です。

この位置で固定すると、ローアンカーでなじんできた筋肉が比較的無拒絶反応を起こしやすいようですし、しっかりとした保持が持続できると思います。

では、ターンの角度をどれくらいにすればという問題ですがこれは実際に引いてみないと何とも言えません。
親指トリガータイプのものであれば、ローアンカーでの手首の位置からあご骨と人差し指の接線を固定したままで水平から180度ターンまで試してください。

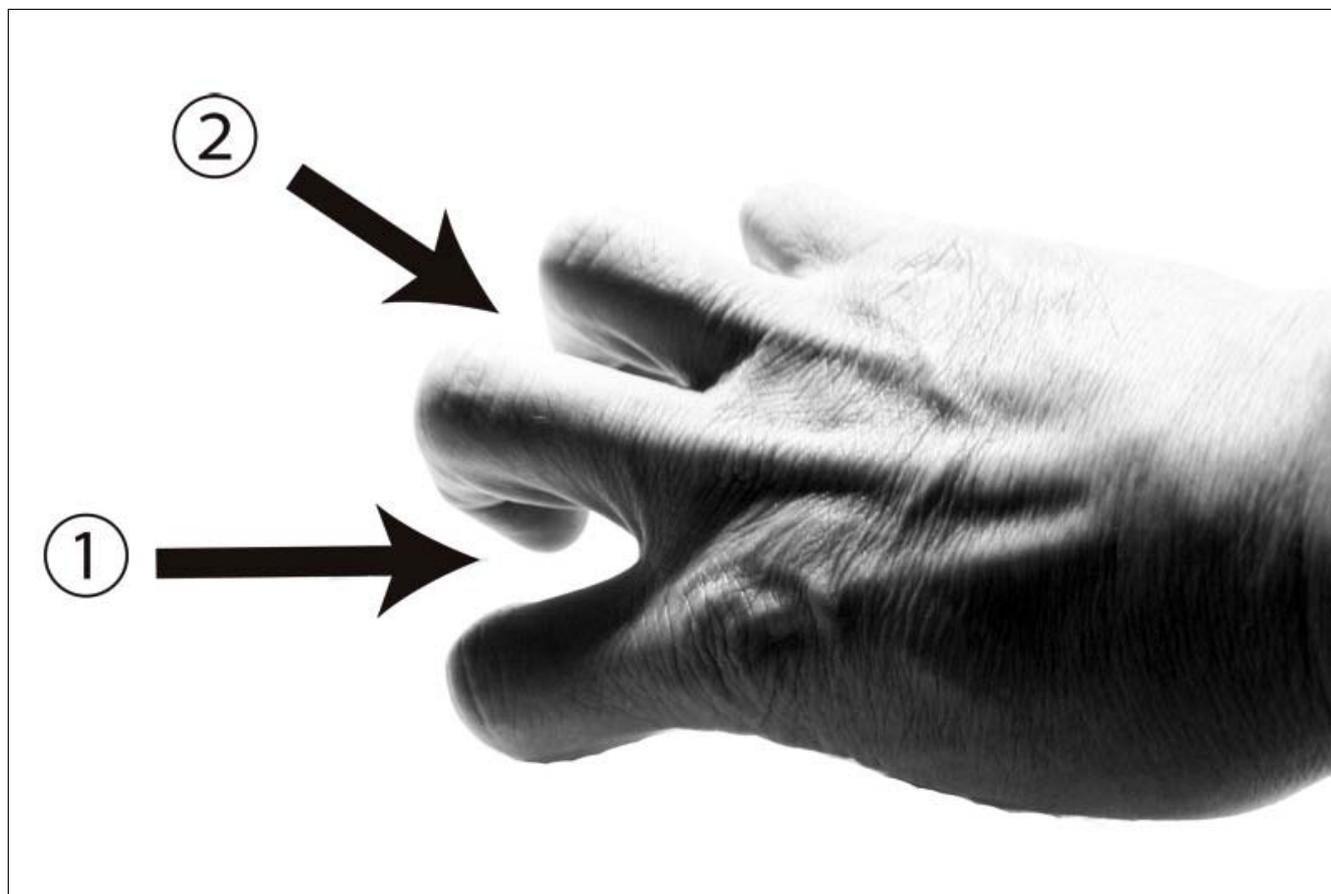
人差し指トリガーの場合にはほぼ水平の位置にすればOKなはずですが。

ところで、先に述べたとおりこの方法ではローアンカーからハイアンカーになるためノック位置がリカーブボウ時代より上になるためどうしてもサイトピンの位置は低くなります。

ポンド数によってはスコープにアローヴェインが接触してしまうという悩みも発生します。
 その場合には、②のポジションを試してみてください。

ただし、この位置にすると筋肉(特に三角筋)にかなり無理が生じるため負担になりやすいので注意が必要です。

もし、無理だと思ったら①に戻して別の方法で、例えば道具の選択でサイトの低さを補正したほうが良いかもしれません。



2013.9.16

最近発生したトラブルと対処方法

★カムトラックからのストリングの逸脱

ストリングがカムトラックから逸脱する事故がかなり発生しています。

症状① シュート時に発生するケース

リリースの瞬間に発生するケースには2種類あります。

*アローが筈こぼれを起した。

信じられないことですがアローをストリングにつけずにエイミングしてシュートしてしまったというケースまで発生しています。

これも筈こぼれと同じ結果です。

どちらも空撃ち(ドライファイヤ・ドライシューティング)なのですが、フォームとチューニングがしっかりしていればピープぐらいいは吹っ飛ばすこともありませんが、ストリングがカムトラックから外れることはありません。

しかし、結果外れてしまったケースは多々あります。

*アローは一応発射された。

もちろん、トラックから逸脱していますからアローはまともに飛んでくれません。

原因は

グリップに過重なトルクが加わっていた。(両者に共通)

アンカーリングの際にストリングに過剰なストレスを加えたため、ノックがストリングから外れた。(筈こぼれ)

アンカーリングを一生懸命につけようとして結果ストリングにストレスが加わりすぎてねじれた状態で発射してしまった。(両者に共通)

以上が単独ないしは複合した結果ストリングがカムトラックから逸脱したと思われます。

症状② 素引きの引き戻し時に発生するケース

*リリーサーで素引き

最も多いケースは、リリーサーを使用して素引きをし誤ってリリーサーのトリガーを押してしまったり、角度を保持できずにリリーサーのフックから(オープンジョウの場合)Dループが外れたり様々です。

どちらにしてもリリーサーを使って素引きをしないでください。

素引きが必要な場合には、Can't Fire Releaseのような道具が必須です。

(道具を使用している場合でもアローをつがえたり人に弓を向けることは厳禁です。)



左はCan't Fire Releaseです。

市販で1,000円以下のものですので是非非常備しておいてください。

ちなみに、写真の左側が最近のもの、右側がかなり昔入手した旧タイプのものです。

Dループの使用者は左側のものを入手してください。

樹脂製なので劣化してきて破損の可能性もあるのでけっしてアローをつがえたり、人らに向けて使用しないこと!!

*フィンガーで素引き

ちょっとした試し引きの際、どうしてもフィンガーでドローしたくなるのはわかるのですが、引き戻しの際にストリングに横ねじれを入れずに戻すにはかなりの体力と注意力が必要です。

CPボウはかなり普及してきているものの、取扱いがリカーブボウと同じ感覚の人が非常に多いのです。素引きなどもその例なのですが、一番困るのがローカルに存在するリカーブボウを長く経験してきたベテランの存在です。

CPを実際に扱ったことがあればまだましなのですが、まったくないにも関わらず他人のCPを素引きして引き戻しに失敗、空撃ちしたりストリングをねじった状態で無造作に引き戻してストリングをカムトラックから逸脱させてしまったという事故が非常に、非常に多いのです。

ベテランが経験浅い方の調整をしてくれるのは結構なのですが、このような有難迷惑なトラブルも発生しています。

CPの所有者は、たとえどんなベテラン(リカーブボウ・CPボウを問わず)が相手でもフィンガーでは素引きはさせない心構えが肝心です。

断りにくい部分もあるのは承知していますが、これは徹底させておく必要があります。

★カムからのストリングの逸脱トラブルの防止策

①可能な限りストリングを顔に触れさせない。

これは以前、アーチャーたちに話をして猛反発を食らったことがあります。

アンカーリングは大切だからしっかりと手とストリングを顔に固定しなければならず、現にそうしたら当たるようになったというのが言い分でした。

アンカーリングの大切さに依存はありませんが、ストリングを顔にしっかりとつけるの部分は賛成いたしかねます。

ストリングを同じ位置に保持するのは大切ですが、顔に強く押し付けるとわかりやすいかもしれませんが、保持には貢献しません。

それどころか顔に強くくっつけることによって、ストリングはねじれリリース時にCPの特性としてそのまま加速して戻ってゆきます。

それが限界点を超えると、ストリングの逸脱を生み出すのは言うまでもないのですがもストリング外れを発生させないまでもアローの大きな乱れにつながりますし、弓の寿命にも大きく影響してきます。

CPのピーク/レットオフ/ホールドウェイトの一覧を貼っておきます。

ピークウェイト	レットオフ	ホールドウェイト
25 Lbs	75%	6.3 Lbs
30 Lbs	75%	7.5 Lbs
35 Lbs	75%	8.8 Lbs
40 Lbs	75%	10.0 Lbs
45 Lbs	75%	11.3 Lbs
50 Lbs	75%	12.5 Lbs
55 Lbs	75%	13.8 Lbs
60 Lbs	75%	15.0 Lbs
70 Lbs	75%	17.5 Lbs

仮に70ポンドのセットを使ったとしてそのホールドウェイトは17.5ポンドですから、アンカーリングの際にストリングを顔に強く押し付けたらどうなるか、一目瞭然かと思えます。

ましてや女性や低ポンドのアーチャーがそれをやったらどうなるか・・・

以前、リカーブボウの時代にスパインをテストしたくて60#のボウをテストしました。

リカーブボウですからもちろんフィンガー引きですが。

その直後に50#のリムに交換してテストを継続しようとし他ののですが、びっくりしたことにドロー時にストリングをねじって引いているのに気が付きました。

10#のギャップによって自分の取りかけの雑さに気が付きショックを受けた覚えがあります。

さて、話を戻すとリカーブボウでは、フルドロー時にポンド数はピークになるのでストリングを少々強く押し付けてもダメージは小さいのですが、レットオフがあるCPでは致命的ともいえます。

特に、低ポンド数の方は要注意です。

CPはほとんどの場合、ピープサイトを利用しているので位置関係はストリングを顔に接触させなくてもチェックできます。アンカーリングの基礎はあごの骨や頬に引手をうまく密着させることです。

極端な話ですが、ストリングを顔に触れないでもアンカーリングの保持は可能なはずです。
安全性と可能性を考え合わせればストリングは顔につけないほうが得だと思っています。

2013.9.14